



東京大学
THE UNIVERSITY OF TOKYO

学内広報

for communication across the UT



特別記事：

学内キャッシュレス化、進行中！

2006.2.22

No. 1330

昨年度、学内広報No.1303でご紹介したI Cカード教職員証。その後も着々とプロジェクトは進み、学内キャッシュレス化は次々と実現しています。そこで今回は、話題の「ポストペイ」と「コーポレートカード」の使い方について、ご紹介しましょう。

ポストペイって、こんなに便利！

「ポストペイ」は、学内キャッシュレス化の立役者。たとえば……本郷キャンパス・安田講堂脇1階の第二購買部で買い物をする際、右の写真のようにセンサーに教職員証を近づけると、さわやかな音楽が流れて支払い完了。通常のクレジットと違って、伝票が出てくるのを待ったりサインをしたりする必要はありません。代金は1ヶ月単位でクレジット会社から請求されます（ポストペイ使用上限額は月3万円）。現在、この機能を使用できるお店は駒場・本郷両キャンパスで14カ所（下の囲み参照）。4月からは本郷構内の自動販売機、ローソン、情報基盤センターのプリントアウト代金にもその用途が広がります。ちなみに、ポストペイは「統合型職員証コーポレートカード」（次ページ参照）にのみ備えられた機能で、用途は私的利用に限られます。



安田講堂脇・第二購買部



店員さんが品物のバーコードを読み取った後にカードをセンサーに近づけましょう！

●現在、ポストペイが使える生協店舗

- <駒場> 購買部、第1号館パン店、1階食堂、2階食堂、駒場FF、駒場グリスパ（食堂）、書籍部
<本郷> 第一購買部、第二購買部、第二食堂、書籍部、浅野店、農学部購買、農学部食堂

●4月からポストペイが使えるスポット

1. 飲料自動販売機（中央食堂、御殿下、農学部各4台）
2. ローソン東京大学内店
3. リコーI0-Gateプリント課金システム
（情報基盤センター管理の有料プリントアウトの代金）

I Cカード教職員証とは？

現在、本学では学生29,000人、教職員11,000人にI Cカード学生証・教職員証の配布を進めています。このI Cカード教職員証、見た目は普通のカードと変わりませんが、中に小さなI Cが組み込まれていて、センサーに近づけるだけで認証ができるようになっています。マイクロコンピュータ（CPU）と大容量メモリー（32KB）を内蔵したI Cカードなので様々な情報を処理することができます。I Cカード教職員証には右の表のような様々な機能があります。これにより、教職員証や図書館利用証など複数のカードの機能が1枚のカードに集約されるメリットがあるわけです。さらに、クレジットカードとしても使える「統合型教職員証コーポレートカード」には、公費・私的利用の支払い機能（ポストペイ含む）が加わることになります。

I Cカードの各種機能

①	附属図書館、駒場図書館の入退館チェック・貸出処理
②	保健センターでの健康診断
③	各建物、部屋等の入退館チェック
④	各種証明書発行 （現在は学生のみ使用）

統合型教職員証コーポレートカードと分離型教職員証の違いとは？

ICカード教職員証には下に挙げた2種類があります。ひとつはクレジットカード機能を持つ「統合型教職員証コーポレートカード」、もうひとつはクレジットカード機能のない「分離型教職員証」。常勤教職員および特定有期雇用教職員の場合、2種類のうちいずれかを任意で選択することができます（短時間勤務雇用教職員は分離型教職員証のみ発行）。本学では「統合型教職員証コーポレートカード」を推奨しています。

統合型教職員証コーポレートカード



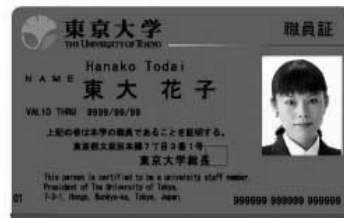
私的利用可

※裏面が教職員証
になっています

この職員証はクレジットカード機能を搭載しており、公費利用と私的利用の両方が可能です。公費支払いとして利用した場合は、カード利用後、速やかに経費精算システムにアクセスして公私の仕分けをすることになっています。このカードには以下のような特長もあります。

- ★教職員証製作費を節約できる(カード会社が負担)。
- ★私的利用すると、カード会社の売上手数料の一部が本学に還元される。
- ★ポストペイができる。
- ★本学退職後も個人のDCゴールドカードに移行可能。

分離型教職員証



+

公費払い専用コーポレートカード



私的利用不可！

常勤教職員および特定有期雇用教職員が任意で分離型教職員証を選択した場合、教職員証とペアで公費払い専用コーポレートカードを持つことになります。当然、私的利用はできません。

※分離型教職員証から統合型教職員証コーポレートカードに切り替えたい方は、各部局の職員証担当者にお願いします。

どちらかを選択

※統合型教職員証コーポレートカードおよび公費払い専用コーポレートカードはどちらもDCゴールドカードなので海外旅行保険が付いています。そのため、海外出張時の保険の経費と手続きが不要です。

公費利用の後は経費精算システムへ

「統合型教職員証コーポレートカード」または「公費払い専用コーポレートカード」を公費支払いとして利用した場合は、カード利用後、必ず経費精算システムで精算処理をしましょう。右のURLからアクセスすることができます。経費精算システムに入ると「統合型教職員証コーポレートカード」の場合は、まず、公費と私的利用を仕分けし(右図1)、精算処理(右図2、3)に進みます。「公費専用コーポレートカード」の場合は精算処理(右図2、3)のみとなります。

なお、各事務担当者に現状をうかがったところ、効率的に事務処理ができる統合型を望んでいるようです。

経費精算システムHP (学内専用HP)

www.adm.u-tokyo.ac.jp/gakunai/fin/fin1/uteas/

(財務部HP→財務会計システム→経費精算システム)

●経費精算処理の流れ

1. 公費と私的利用の仕分け(統合型のみ)
2. 利用目的、支払科目、勘定科目、プロジェクトコード等の設定
3. 部局内承認

今後の展望

今回、ご紹介したポストペイの機能は来年度以降も順次拡大していく予定です。今後は徐々に、本学構内の様々な現金支払いが教職員証で出来るようになることでしょうか。お楽しみに！

★問い合わせ先: 総務部情報課 香田 内線22221

NEWS

一般ニュース

学生部

第2次学力試験（前期日程・後期日程） の出願受付終わる

平成18年度第2次学力試験の願書受付が1月30日（月）から始まり、2月7日（火）に締め切られた。志願者数は次のとおりである。

前期日程入学志願者数等

科類	募集人員	志願者数	倍率	前年度の倍率
文科一類	373	1,549	4.15	3.91
文科二類	327	1,099	3.36	3.35
文科三類	432	1,521	3.52	3.36
理科一類	1,025	2,705	2.64	2.81
理科二類	492	2,170	4.41	3.75
理科三類	80	433	5.41	5.33
合計	2,729	9,477	3.47	3.36

後期日程入学志願者数等

科類	募集人員	志願者数	倍率	前年度の倍率
文科一類	42	923	21.98	18.69
文科二類	38	672	17.68	17.37
文科三類	53	981	18.51	17.42
理科一類	122	2,084	17.08	16.38
理科二類	59	639	10.83	10.22
理科三類	10	175	17.50	14.90
合計	324	5,474	16.90	15.80

学生部

平成18年度第2次学力試験 （前期日程）の受験者数決まる

本学の平成18年度第2次学力試験（前期日程）の第1段階選抜が行われ、2月14日（火）午後、本郷地区キャンパス内において合格者が発表された。これにより、2月25日（土）・26日（日）及び27日（月）に、本郷・駒場の両キャンパス試験場において行われる前期日程の第2次学力試験の受験者数が確定した。

なお、各科類の合格者数は下表のとおりである。

前期日程第1段階選抜結果

科類	募集人員	志願者数	倍率	第1段階選抜		合格者科別成績		
				合格者	予告倍率	最高点	最低点	平均点
文科一類	373	1,549	4.15	1,124	3.0	878	714	795.42
文科二類	327	1,099	3.36	985	3.0	877	722	786.17
文科三類	432	1,521	3.52	1,296	3.0	875	739	789.72
理科一類	1,025	2,705	2.64	2,563	2.5	886	721	807.85
理科二類	492	2,170	4.41	1,730	3.5	878	733	793.60
理科三類	80	433	5.41	323	4.0	890	797	838.34
合計	2,729	9,477	3.47	8,021				

※大学入試センター試験成績は、平成18年度900点を満点とする。



学生部

平成18年度外国学校卒業学生
特別選考の受験者数決まる

平成18年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付は、第1種が12月9日（金）、第2種が11月10日（木）に締め切られた。志願者は、第1種（外国人）85人、第2種（日本人）102人、合計187人で前年度より43人減であった。

また、その後行われた第1次選考の結果、外国学校卒業学生特別選考第2次学力試験の受験者数が確定し、2月上旬に各人あて通知された。

外国学校卒業学生特別選考第1次選考結果				
科類	第1種（外国人）		第2種（日本人）	
	志願者数	第1次選考合格者	志願者数	第1次選考合格者
文科一類	5	2	32	15
文科二類	27	7	16	7
文科三類	12	3	17	11
理科一類	32	11	21	11
理科二類	8	4	9	8
理科三類	1	0	7	2
合計	85	27	102	54

なお、志願者の種別の人数、国籍等（第1種）及び修学先の所在国名等（第2種）の内訳は、次のとおりである。

【第1種】

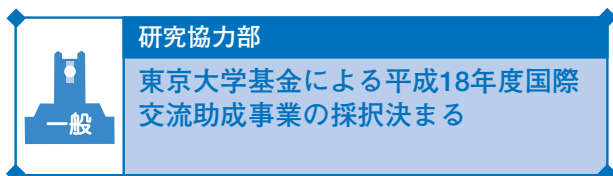
中国	53人
韓国	25人
台湾	2人
ベトナム	2人
スウェーデン	1人
ブラジル	1人
チリ	1人

(合計) 85人

【第2種】

アメリカ	44人	台湾	4人
イギリス	9人	フィリピン	4人
オーストラリア	6人	ベルギー	1人
フランス	3人	中国	10人
ドイツ	5人	ニュージーランド	1人
カナダ	6人	タイ	1人
シンガポール	2人	イタリア	1人
スペイン	1人	南アフリカ	1人
韓国	2人	ハンガリー	1人

(合計) 102人



研究協力部

東京大学基金による平成18年度国際交流助成事業の採択決まる

東京大学基金による平成18年度国際交流助成事業のうち、「海外学術交流拠点設置・運営経費助成事業」、「東大シンポジウム開催経費助成事業」及び「ジョイント・フォーラム開催経費助成事業」について、以下のとおり助成することを決定した。

なお、国際交流助成事業の「長期派遣経費助成事業」については、3月上旬頃決定の予定である。

1. 海外学術交流拠点設置・運営経費助成事業（平成18年度）

部局名	代表者職・氏名		海外拠点の名称	設置場所
医学教育国際協力研究センター	センター長 (教授)	加我 君孝	東京大学医学教育共同研究センター	カブル医科大学内 (アフガニスタン)
大学院工学系研究科	研究科長 (教授)	平尾 公彦	東京大学工学系研究科無錫代表所	中国江蘇省無錫市新区
生産技術研究所	所長 (教授)	前田 正史	都市基盤安全工学アジア研究センター	バンラディシュ工科大学工学部土木工学科

2. 東大シンポジウム開催経費助成事業（平成18年度）

部局名	開催責任者職・氏名		シンポジウム名称	開催場所
大学院理学系研究科	教授	塩谷 光彦	東京大学(UT)ールイ・バストゥール(UPL) 合同シンポジウムー超分子科学のフロンティアー	理学系研究科 化学本館講堂
大学院総合文化研究科	教授	村田 雄二郎	近現代中国と東アジアの公共性ー自由と統合をめぐるー	駒場キャンパス
物性研究所	助教授	小森 文夫	第10回東京大学物性研究所国際シンポジウム “表面におけるナノサイエンス”	物性研究所

3. ジョイント・フォーラム開催経費助成事業（平成18年度）

部局名	開催責任者職・氏名		フォーラム名称	開催地（開催国）
大学院工学系研究科	教授	高田 毅士	災害軽減に向けた工学と建築デザインに関する共同フォーラム (ウィーン工科大学ー東京大学 交流25周年記念事業)	ウィーン (オーストリア)
大学院人文社会系研究科	教授	武川 正吾	UN-SNT社会学研究フォーラム	ソウル (大韓民国)
大学院農学生命科学研究科	助教授	山川 隆	東京大学農学生命科学研究科ーワシントン州立大学第2回合同シンポジウム	パルマン (アメリカ)
大学院総合文化研究科	教授	酒井 哲哉	東アジア四大学フォーラムー共通文化の創造をめざして	ハノイ (ベトナム)
大学院新領域創成科学研究科	教授	中山 幹康	国際河川ホットスポット：チグリス・ユーフラテス川流域管理における政治交渉と科学の役割	東京 (日本)

研究協力部・総務部



小宮山総長が世界経済フォーラム 年次総会（ダボス会議）に参加

World Economic Forum（世界経済フォーラム・略称 WEF）は、1971年にジュネーブ大学のKlaus Schwab教授によって設立された非営利団体である。そのWEFの年次総会（通称ダボス会議）が、毎年1月にスイスの観光地であるダボスで開催されている。世界のトップリーダーが集結し、活発な本音の議論が行なわれている。今年も1月25日（水）～29日（日）の日程で行なわれ、小宮山総長が参加した。今回の参加の主要な目的は、今年初めて開催される会合、グローバルリスクに関する「世界大学学長会議」に出席することであった。ダボス会議は、本来は経済人の会議であるが、事務局から大学と経済界との連携について要請があり、それに応える形で開かれたものである。従って、WEF議長である、Klaus Schwab教授の出席のもとに行われた。

事前に事務局および参加学長達から提出されたグローバルリスクは、経済リスク、環境、科学技術関連リスク、地政学的リスク、社会的リスクなど多岐にわたっていた。今回は、初会合ということもあり、これらの項目について、個別に議論するのではなく、主としてこれらのリスクに対応していくに当たってどんな問題があるか、また、今後大学が問題解決の面で貢献するために、具体的にどのように進めていくか、などを中心に話し合った。

この会議の中で、小宮山総長は、「グローバルリスク」という幅広い問題の解決のためには、現在の大学の研究体制は不備であり、非常に細分化された学問分野を統合するための「知識の構造化」が必要であること、また、本学では実際にそのようなアプローチが採られ、必要なツールを開発しているという趣旨の発言を行った。



会議後、Schwab議長と個別会談する小宮山総長

また、会期中、小宮山総長主催のレセプションパーティーも開催し、衆議院議員町村信孝氏、MITのHockfield学長、ケンブリッジ大学のRichard学長など国内外の要人約40名が出席し、盛会となった。

研究協力部



サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S) 公開シンポジウム開催される

文部科学省科学技術振興調整費（戦略的研究拠点育成）事業により平成17年8月、本学に設置された「サステナビリティ学連携研究機構」（Integrated Research System for Sustainability Science: IR3S）は、京都大学、大阪大学、北海道大学、茨城大学など、わが国の優れた研究機関との連携により、サステナビリティ学（sustainability science）創生のための世界的なネットワーク型研究拠点の形成を目指している。

本連携研究機構では、サステナビリティ分野で先進的な研究成果を収めつつある世界の研究機関とも協調しながら、地球持続性の鍵を握るアジアの現場における問題解決の途を探るために、「東アジア研究型大学協会」（AEARU）と「日本経済新聞社」の共催で、公開シンポジウム「サステナビリティ学が拓く地球と文明の未来」を、2月4日（土）、安田講堂において開催した。

シンポジウムでは、小池百合子環境相による記念講演、小宮山宏本学総長による基調講演に引き続き、エイモリ・ロビンス ロッキー・マウンテン研究所CEO、佐和隆光京都大学経済研究所所長による講演、さらに「地球持続戦略の構築を目指して」というテーマで総合討論が行われた。



小池百合子環境大臣

1,000名を超える一般からの参加者があり、会場は立ち見の受講者が出る盛況ぶりであった。



満席となったシンポジウム当日の安田講堂

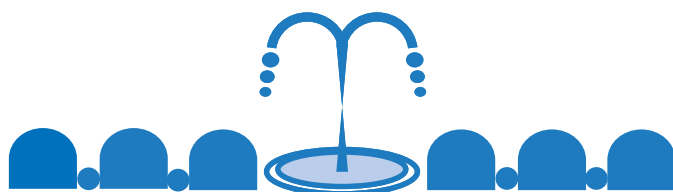
また、公開シンポジウムに先立って行われた専門家会合（2月2日（木）・3日（金）、小柴ホール）では、海外から16名、国内の大学・研究機関から11名の講演者を招き、それぞれ研究報告がなされた。100名を超える国内外からの参加者から活発に質問や意見が出され、白

熱した議論が繰り広げられた。

3日間の国際シンポジウムを通して、研究者のみならず、一般市民の「サステナビリティ学」に関する関心の高さを肌で感じることができた。本国際シンポジウムの様子はサステナビリティ学連携研究機構のホームページに掲載予定である。

(アドレス：<http://www.ir3s.u-tokyo.ac.jp/>)

※「サステナビリティ学」は、地球環境問題や人間の安全保障の問題に代表される地球・社会・人間システムとその相互関係の破綻をもたらしたメカニズムを解明するとともに、持続可能性(sustainability)という観点から、システムの再構築と関係修復のためのビジョン提言を目指すための新しい学術体系である。



「噴水」のコーナーに投稿を！

「噴水」のコーナーは、本学の学生や教職員にかかわる様々な出来事を、皆様からの投稿によるコラムとして紹介するコーナーです。

「教職員の有志でこんな活動をしています」、「本学の学生や教職員が学外のイベントでこんな活躍をしています」などなど、部局としての公式ニュースとまでは言えないけれど学内のみなさんに是非お知らせしたい、そんな情報があれば、是非積極的に「噴水」のコーナーに記事をお送り下さい。

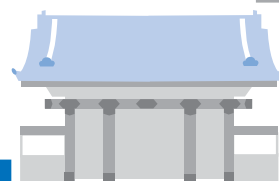
<原稿の送付先・問い合わせ先>

総務部広報課

E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

TEL：03-3811-3393 内線：22031

部局 ニュース



部局

東京大学ナノバイオ・インテグレーション研究拠点設立記念シンポジウムの開催

2月3日(金)、医学部鉄門記念講堂において、東京大学ナノバイオ・インテグレーション研究拠点の設立を記念し、同研究拠点主催によるシンポジウムが行われた。この研究拠点は、文部科学省「ナノテクノロジー・材料を中心とした融合新興分野研究開発」プログラムの助成により設立され、学内の工学系、医学系、理学系の各研究科及び東大病院に加えて、物質・材料研究機構、産業技術総合研究所という2つの外部協力機関、更には参加連携企業などの多岐にわたる組織から形成されている。同拠点は、ナノテクノロジーの先端医療への応用を中心として、最先端技術を速やかに実用化することを第一の使命として活動を展開している。つまり、複数の分野の融合を促進することにより、従来の学問分野にとらわれない基礎的研究を行うと同時に革新的「ナノ医療」を構築し、さらにはナノバイオ新産業の創出までを効率的に達成することを狙った“統合的”研究拠点である。



小宮山総長による挨拶

シンポジウムは、13時、小宮山総長、佐藤文部科学省材料開発推進室長、廣川医学系研究科長、永井医学部附属病院長の挨拶で幕を開けた。続いて、拠点リーダーの片岡工学系研究科教授による研究拠点の趣旨説明が行われ、「世界をギクリとさせる研究」という言葉に代表されるこの研究拠点の方針が示された。その後、実際に研究を担当する26名の課題研究代表者の中から6名(セルセラピー、ナノマシン、ナノバイオセンシングの3つの研究サブグループから各2人ずつ)による各25分程度の講演が行われ、本研究プロジェクトで行われる研究の詳

細、及び夢が熱く語られた。最後に、物質・材料研究機構フェローでもある堀池プロジェクトマネージャーから拠点としての活動の総括があり、平尾工学系研究科長の挨拶により締めくくられた。参加人数は、400名を越え、ほぼ満員と大盛況であった。

シンポジウムに引き続いて行われた懇親会も出席者約130名と賑わいを見せ、和やかに歓談が交わされると同時に、産学の枠を越えた活発な交流が行われた。



懇親会の様子

なお、このシンポジウムの模様は、研究拠点のホームページより閲覧可能である。現在は写真の紹介だけだが、近々動画もアップロードする予定なので、拠点の紹介と併せて是非ともアクセスして頂きたい。

ナノバイオ・インテグレーション研究拠点ホームページ
<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/CNBI/activities/sympo01/index.html>

理学系研究科・理学部
「大学院理学系研究科・理学部教職員と留学生・外国人研究者との懇親会」、開かれる

1月31日(火)13時からフォレスト本郷内フランス家庭料理店「ルヴェ・ソン・ヴェール」において大学院理学系研究科・理学部教職員と留学生・外国人研究者との懇親会が開催され、小雨が降る中、留学生・客員研究者とその家族、教職員、合わせて78名の参加者があった。会は岩澤康裕理学系研究科長による歓迎の挨拶と石田国際交流委員会委員の乾杯の音頭で始まり、温かく美味しそうな料理とよく冷えたビールやワインを片手にあちこちで談笑の輪が広がるなど、会場内はとても和やかな雰囲気にも包まれた。



参加者の記念撮影

会後半には博士課程2年の中国からの留学生、Fu Guangyu(付広裕)さんと、スウェーデンからの研究員Niclas Anders Solinさんによる見事な日本語によるスピーチが行われ、会場は拍手喝采であった。

スピーチの後は参加者全員でクイズ形式のゲームを行い、全問正解者には心のこもった豪華商品が贈られた。坂野国際交流委員会委員長による閉会の辞が行われ全員で記念撮影の後、盛況のうちに閉会した。



クイズの正解者!

普段は研究に忙しい毎日を過ごしている留学生と客員研究員も研究室を越えていろいろな人と話し、楽しい交流のひと時を持てたようである。

大学院理学系研究科では、原子核科学研究センター及び物理学教室が中心となって、日本学術振興会の平成17年度「研究成果の社会還元・普及事業 ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」に応募し、2月5日（日）、「フェムトワールドへの誘いー超ミクロな世界の不思議ー」を開催した。



最新鋭加速器RIBFの見学

本プログラムは、特別推進研究「モンテカルロ殻模型」（平成13～17年度）、同「反水素原子の分光」（平成15～19年度）、同「発熱型荷電交換反応による時間的領域でのスピン・アイソスピン応答」（平成17～21年度）などの成果の社会還元の一環として、高校生を対象として計画した。

プログラムは次の通りである。

- 講演
 - 大塚孝治「はじめに、フェムトの世界」
 - 下浦 享「フェムトワールドを見る、聴く、調べる」
 - 早野龍五「反物質」
 - 酒井英行「アインシュタインは間違ったのか？」
- 実験施設見学（理化学研究所）
 - 矢野安重「RIBF加速器の見学」完成間近の世界最強の重イオン加速器を見学
- 映画上映
 - 「偉人たちの夢 ローレンス」
 - 「R I ビームをつくるための加速器とその原理」
- フリートーク（クッキータイム）、未来博士修了証書授与式



修了証書授与

参加者は数名の先生や父兄を含め、16校から26人であった。参加者へのアンケートによると、大変好評で「また、来たい」という回答が多く寄せられた。フリートークでは、主催者側がびっくりしてたじろぐような鋭い質問もあり、「もっと長くしてほしい」と言われるほどの盛り上がりであった。



高校生との懇談風景

見学では、「総重量8,000トンにもおよぶ最新鋭巨大加速器やそのまわりの測定器に触れ、実機の迫りに感動した」「講義や懇談で、我々の体や宇宙全体を作っている物質の根源であるフェムトワールド（原子核）という極めて小さい世界に触れ、それらのなりたちの解明に巨大な加速器が必要ということも知った。また、そのような知の探求に大きな情熱と努力が払われていることに大きな感銘を持った」このような感想が寄せられている。最後に、見学のお機会を作ってくださった理化学研究所、および、矢野安重博士に感謝申し上げる次第である。

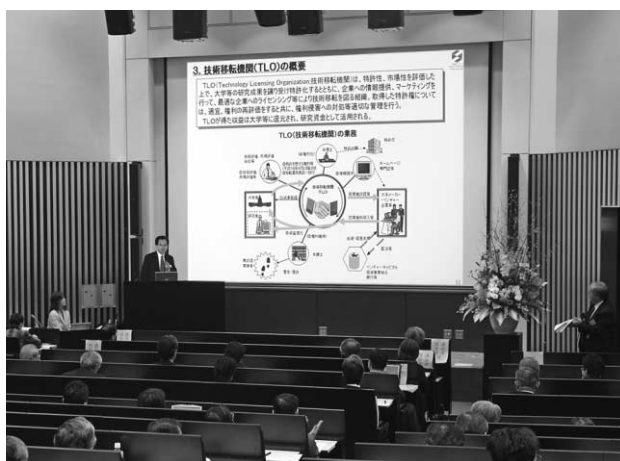
生産技術研究所

「産学連携フォーラム2006」開催される

部局

生産技術研究所では、2月3日（金）、駒場リサーチキャンパス駒場コンベンションホール（An棟（総合研究実験棟））において、「産学連携フォーラム2006」を開催した。本所では産学連携に関する講演会を数年前より開催しており、6年前から産学連携フォーラムとして毎年開催している。

今年度のフォーラムは、産業界などから110名を超える参加者があり、文部科学省及び経済産業省から産学連携に関する取組みや産学連携の推進についての講演、前田所長による本所の産学連携活動の60年の歴史と近年の活動について講演が行われた。



講演会の様子

フォーラム後半では、国際・産学共同研究センター（CCR）長によるCCRの活動報告、本所教員による「文部科学省リーディングプロジェクトにおける産学連携報告」と「文部科学省次世代IT基盤構築のための研究開発と産学連携による普及の推進」についての講演があった。また、産業界からの講演として、総合社におけるイノベーションセンターの役割等について紹介された。

フォーラム終了後には、隣接のホワイエにおいてポスターセッションが開かれた。ポスターセッションでは、本所において研究をしている学生による研究成果発表が行われ、活発な意見交換が行われた。

物性研究所

第6回韓日中性子科学会議開催

部局

2月2日（木）～3日（金）、第6回韓日中性子科学会議が、本学物性研究所中性子科学研究施設のある茨城県東海村で、物性研究所他、高エネルギー加速器研究機構、日本原子力研究開発機構、京都大学原子炉実験所の共催で行なわれた。

この会合は、日韓両国の中性子科学における協力を推進する為、毎年日本と韓国とを交互に開催地として開かれている。6回目を迎えた今回、日韓両国に台湾からの参加者に加え、過去最高の82名の中性子散乱・中性子ラジオグラフィー研究者が一同に会した。



会議参加者の集合写真

現在、世界最大級の次世代中性子源「J-PARC」（Japan Proton Accelerator Research Complex）の建設が、茨城県東海村で順調に進む中、今後の日韓及びアジア地区における中性子科学の研究体制を、如何に効率よく構築して行くかが差し迫った課題であり、双方の、学生を含む研究者が密にコミュニケーションを取る事が出来たこの機会は、非常に有意義であった。

会議は中性子科学研究施設長を務める吉澤英樹教授の挨拶で幕を開け、講演数25件に加え30件以上のポスター発表があり、その分野は、ソフトマター科学・生物・固体物理など広範に渡り、特に若手研究者が活発に意見を交わした。



ポスター発表で議論を交わす日韓の学生

会議の運営と進行には、物性研究所中性子散乱施設に所属する大学院生達が積極的に関わり、また、韓国から参加した大学院生は、中性子散乱施設の宿舎に宿泊し、日本人学生と楽しく交流した様であった。この中から、次世代の中性子科学を担う研究者が輩出される事を願って止まない。次回の会議は、来年2月、韓国で開催される予定である。

なお、この会議の詳細は、以下のURLで参照できる。
<http://shibayama.issp.u-tokyo.ac.jp/KJmeeting/index.html>

中性子を用いた研究に興味がある方は、物性研究所中性子科学研究施設のホームページをご参照頂きたい。
<http://www.issp.u-tokyo.ac.jp/labs/neutron/index.html>

(参加した学生からの感想)

物性研究所修士1年 宮崎 翔

外国人の参加する会議に参加したのは初めてで、全編英語による会議は非常に刺激的なものでした。発表テーマも中性子を使用した固体物理、ソフトマター、生物など多岐にわたる研究で、興味深いものばかりでした。そして、なによりも印象に残っているのは韓国の学生と同じ施設に宿泊して交流を深められたことでした。彼らが日本について非常に興味を持っていたのには驚かされました。ぜひ来年の韓国での会議にも参加したいと思いました。

空間情報科学研究センター
 第1回GIS講習会を開催

12月15日(木)、柏キャンパス総合研究棟470号室にて、空間情報科学研究センターの第1回GIS講習会「はじめてのArcGIS」が開催された。参加者は19名(当日欠席2名)。募集期間が短かったものの、事前の参加申し込み定員20名を上回り、大勢の方々の参加をお断りせざるを得なかった。

当日は空間情報科学研究センターがサービス提供している地理情報システム(以下GIS)ソフトウェア「ArcGIS」サイトライセンスを用いて、GISをはじめて利用される方を対象に基本操作、解析方法、トラブル対処法といった具体的な操作テクニックを紹介し、参加者に1台ずつ用意したノートパソコンを用いて実習を行った。

(講義内容)

◆基本操作

- ・起動方法 ・レイヤの追加
- ・エクステンション設定 ・ツール
- ・座標系の定義 ・マップの保存

◆主題図作成

- ・属性テーブルの表示 ・テーブルの結合
- ・ラベリング ・属性ごとの色づけ
- ・デジタイジング ・クリッピング
- ・属性検索 ・面積集計

◆サービス紹介

- ・サイトライセンス ・バーチャルキャンパス
- ・データ共有サービス ・アドレスマッチング
- ・てくてくGIS ・GISSchool

今回のGIS講習会は予想をはるかに上回る好評を博したため、当センターでは今後も定期的に講習会を開催する予定である。次回講習会の予告については、詳細が確定次第、当センターのウェブページに掲載する。

(<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/japanese/>)



第1回GIS講習会の様子

前号の特別記事に引き続いて、本号から3回、本学のバリアフリーに関するコラムを連載します。今回は「バリアフリー領域創成プロジェクト」についてご紹介します。

バリアフリー領域創成プロジェクト（代表 福島智助教授）は総長プロジェクトとしてスタートし、現在、柏キャンパスの総合研究棟を拠点に「障害のある人の支援技術利用」を研究テーマに活動しています。

支援技術（AT：Assistive Technology）といっても聞きなれないかもしれません。ALS（注1）という病気で四肢の自由を奪われた英国の宇宙物理学者のホーキング博士が僅かな残存能力でパソコンを操作し、研究や講演活動を行なう姿が多くの人々の記憶にあるかと思います。そこで使われている入力装置や音声ソフトなどがATと呼ばれるものです。これは多くの人に科学技術の素晴らしさを印象付ける上で十分なことでした。しかし、その背景には博士の機器利用への意欲、リテラシーの高さ、経済的・人的サポートなどがあるわけで、現実には誰もが同じようにというわけにはいきません。一般には、

ATへの拒否的態度、AT利用がリハビリの妨げとなるなどの危惧、ATスキルを学ぶカリキュラムや場の少なさ、AT製品の流通量が少なく高価であるなど様々な研究分野にまたがる問題が存在し、技術の進展ほどは当事者のAT利用が広がっていないといえます。また、AT研究が開発以外は学問的に評価されにくく、当事者やそのニーズに関する科学的データの蓄積と分析が不十分なため、問題点の整理ができていないのが実状です。このままでは技術開発のみが一人歩きするだけでなく、利用者が少なれば研究が先細って来ることは明白です。

このプロジェクトでは、当事者のニーズやそれに関連するデータを科学的にとらえ、技術シーズを有する研究者のバリアフリー研究を支援すると同時に、利用に関わる諸問題を学際的に検討し、「利用の科学」たる新しい領域創成を目指しています。



現在進めている研究の1つである「感覚過敏低減フィルタの開発」を例に、我々の目指すところを述べてみます。この研究は、あるアスペルガー症候群（注2）の人の聴覚・視覚刺激への過敏性のエピソードからスタートしています。残念ながら一人の人がエピソードを語ったとしてもそれは個人の問題として片付けられるでしょう。「他にも多くの人困っている」と言ったとしてもその人数が明らかでなければAT開発まで結びつくことは少ないでしょう。「過敏性発生のメカニズムは?」、「どういったフィルタが有効か?」といった様々な疑問を科学的に解明し、ニーズをより具体化し、感覚過敏フィルタの具体像を描き、それを基に学内外の技術シーズと結びつけていくのが我々の狙いです。このプロジェクトは当事者参加型の研究として進められています。現在、3名のアスペルガー症候群の方々と一緒に働きながら、過敏低減フィルタの形を議論しています。本学の中にも様々な障害のある学生・職員が存在すると考えられます。

その人たちにも開発に積極的に参加してもらえるプロジェクトでもありたいと思っています。

感覚過敏のエピソードの分析はこれまでのバリアフリーの方向性に疑問を投げかけるものでもありました。バリアフリーの指針では、標識やパソコン画面などを見やすくするためコントラストの強いものが望ましいとされてきましたが、一部の過敏性のある人にはそれが不快なものとなり、活動のバリアとなる可能性も示されています。こういった学際的に検討すべき課題の提示も我々のミッションの1つと考えています。

多くの人は明日使える技術の登場を待つだけでなく、今日の支援を求めているに違いありません。誰もが簡単に科学技術の恩恵を受けられるようにするには技術開発のみならず様々な研究領域の活性化と融合が必要です。これを通じて科学技術を組み込んだ新たな障害観の構築とテクノ福祉社会が実現できると考えています。

（先端科学技術研究センター特任教授 中邑賢龍）

（注1）ALS（筋萎縮性側索硬化症）：運動ニューロンのみが選択的に障害される病気の1つ。

（注2）アスペルガー症候群：自閉症のタイプの1つ。知的障害はなく、言葉をしゃべることができるが、コミュニケーションに障害を有する。

第3回 「名刺」

今回はやや小型の案件です。法人化前、教職員の名刺は各自の自己負担でした。民間会社では、名刺が必要な社員には会社負担で配られるのが普通です。どうやら「民間会社は会社の利益を上げるために名刺が使われるので会社もちなのだ。大学は違う。個人用の名刺を税金で作るのは論外。」と考えられてきたようです。

法人化とともに、東大に対する社会の関心が高まり、東大自身もまた「学術と社会との交差」を掲げる時代に入りました。そして東大の教職員と学外との交流は間違いなく増えています。このような中、小宮山総長の決断で教職員の名刺を大学として作製することとなりました。

もちろん業務の性格から、名刺は必要ないポストもあります。つまり必ずしも全員が名刺をもつとは限りませんので、総務部ではまず名刺をもつ必要のある教職員の申告に基づいて名刺に印刷する事項の収集整理から始めました。また、名刺のスタイルも、タテ・ヨコ3種類ほど用意して選択してもらうこととしました。



調達本部

東大太郎 TODAI Tarou

東京都文京区本郷7-3-1 〒113-8654
Tel : 03-0000-0000 (DL)
Fax : 03-0000-0000
e-mail : ****@adm.u-tokyo.ac.jp

ここで調達本部が登場します。もちろん、できるだけ廉価に仕上げるためです。初回の大量発注に加え、その後続く増し刷り等も含めた一括契約として、規模のメリットを目指しました。また、これまでも東大で名刺印刷を請け負ってきた業者は多数あったわけですが、今回は新規の業者にも見積もりをお願いし価格競争に参加してもらいました。

その結果カラーの東大マーク入り両面印刷で「100枚」あたり693円（消費税込み）という単価が決まりました。これまで個人的に印刷を頼んできた価格に比べれば、大幅に安いことがおわかりになると思います。ほぼ半額以下の水準ではないでしょうか。大学として新たに発生した必要経費を最低限に抑えることに成功したと思っています。

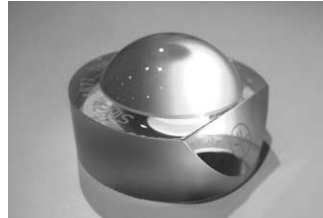
そろそろ皆さんの手元に真新しい名刺が届くころかと思えます。大学が業務の必要に応じて教職員に名刺を配付したこと、また、その印刷にあたってコスト抑制を確実に果たしたこと、いずれもが法人化後の東大の変化を象徴する出来事のように思われます。小さな案件ではありますが、意味するところは結構大きいと思取り上げた次第です。

調達本部連絡先 ☎22148 櫻井

コミュニケーションセンターだより No.13

■ペーパーウェイトが復活！

オープン当初扱っておりましたペーパーウェイトが、新商品として復活します。今回の商品はペーパーウェイトとしてだけでなく、ルーペとしても使えるスグレモノ。



8,400円（税込）
発売予定 2月28日～

*販売する商品は写真とは若干デザインが異なります

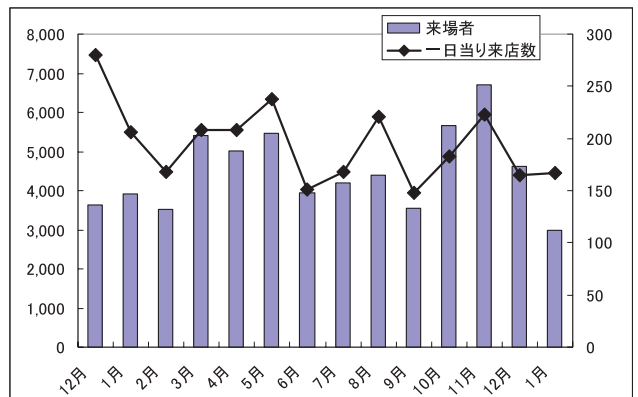
ガラス中央がラウンドフォルムになっていて書類において上から見ると文字が大きくくっきりと見えます。

卒業や入学の記念、贈り物に最適な商品です。是非、ご覧ください。



■コミュニケーションセンター来場者

コミュニケーションセンターは一昨年11月に仮オープンし、昨年3月の本オープンからは約1年が過ぎました。今回は、オープンからこれまでの来場者数の推移をご報告します。



来場者は季節要因による変動などもありますが、月平均では4,500人、一昨年12月からの累計利用人数は6万3千人近くにも達しています。昨年11月は、ホームカミングデーなどのイベントもあったこと、日曜日でも店舗をオープンしたことなどの影響もあり月間来場者は年間ピークとなっています。

*年末から年始にかけて「御酒」の生産が追いつかず、予約販売とさせて頂きました。ご迷惑をおかけ致しました。現在は通常販売となっております。

(担当：渉外本部 曾我)



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN : 月曜～土曜 10 : 30～18 : 30

電話 : 03-5841-1039

http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01_j.html

馬術部

○ 馬術部紹介 (公式編)

陸大に端を発するわが部は、数々の試練を乗り越え2005年に90周年を迎えました。



ヨーロッパを中心に発展した馬術は、障碍飛越 (馬場内に設置されたコースを走行し、タイムと障害の落下などによる減点で順位を競う) と、馬場馬術 (規定の運動を演技し、馬の従順性・優美さを競う。フィギュアスケートに近い) の大きく2つに分けられます。

私達も三鷹市にある東大の馬場で日々練習に励んでいます (決して競馬の練習をしているわけではありませんのでご注意を…)。

○ 馬術部紹介 (実態編)

生き物が相手だけに、馬術部の活動には正月もお盆も試験休みもありません。馬の朝は早く、午前中は馬の世話、午後から大学へ行くこともしばしば、週2・3日は交代で厩舎に泊まり、土日は馬のエサ代の為に精を出し…。部員は大学から始める初心者ばかりですが、こういう生活を4年間続けると立派な馬乗りの出来上がり！流行に遅れがちなのが難点ですが、「俺は東京大学馬術(学)部卒業だ!!」と誇りをもって(?)言えるのは、馬がいて、顔の見飽きた部員がいて、という一見平凡な時の流れが、実は二度と味わえない貴重なものだからなのではないでしょうか。

こんな馬術部ですが、活動に興味を抱かれた方はお気軽にご連絡ください。学部生・院生問いません。また学内の方を対象とした馬術講習会も夏と冬の年2回開催しておりますのでふるってご参加ください。ただし毎年好評ですぐに満員になりますので、お申し込みはお早めに。(馬術部 永田 洋士)



★★DATA★★

創立：大正4 (1915) 年
 人数：5名(馬匹 4頭)
 練習場所：東京大学三鷹馬場
 練習日：毎日
 年間予定：5月 七大戦・新歓合宿
 6月 争覇戦・関東学生馬術大会
 8月 山中湖合宿
 11月 全日本学生馬術大会
 3月 東京六大学戦
 今年度の成績：東京六大学戦 個人3位入賞
 招待東日本学生馬術大会 準優勝
 部長：小川博之 (大学院農学生命科学研究科教授
 ・家畜病院院長)
 監督：加藤佐代子 (平成2年馬術部OG)
 HP：<http://equestrian.fc2web.com/>

体操部

○ 「器械体操ってどんなスポーツ？」

器械体操の一般的なイメージを挙げると、床で宙返りやバック転をしたり、平均台の上でジャンプやターンをしたりというものがあるでしょう。器械体操は、男子では床、鞍馬、吊り輪、跳馬、平行棒、鉄棒の6種目、女子では、床、平均台、段違い平行棒、跳馬の4種目によって構成される競技です。見た目にも派手な動きをする体操は、それぞれの器具を用いてアクロバティックな技を、より美しく、より新たなものへと磨いていく過程がとても魅力的で、逐一の試合の結果よりも楽しみながら上を目指すものとしての側面が強いと言えるでしょう。



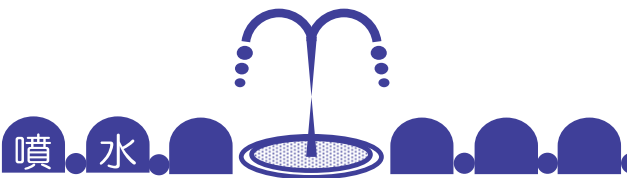
○ 「東大体操部はどんなところ？」



なんといっても今年は新入部員に恵まれ、女子が記録的な大躍進を遂げたことが大きいでしょう。そのような刺激を受け、男子も含めて部全体が非常に活気に満ちた状態です。もともと設備がよく練習環境の整った東大体操部においては、現役部員に加え、他大学や幅広い年齢層の方々が集まって練習しています。そのため、誰でも分け隔てなくアドバイスしあい補助をするなど、初心者でも安全に楽しく練習することができます。そういった練習の成果として昨年は、七大戦など各大会における女子の優勝をはじめとした好戦績を残しました。本年度も更なる飛躍に向けて、部員一同練習に励んでおりますので、ご期待、ご声援の程よろしく願いたします。(体操部 岡部 のぞみ)

★★DATA★★

創立：昭和24 (1949) 年
 人数：20名
 練習場所：駒場地区トレーニング体育館
 練習日：月～木 16:30～ 土・祝 14:00～
 年間予定：4月 東日本インカレグループ予選
 5月 東日本インカレ
 8月 七大戦
 10月 新人戦
 11月 OB戦 しもつき杯
 12月 三校戦
 今年度の成績：(男子) 東日本インカレ 団体出場
 七大戦 団体3位
 (女子) 七大戦 団体1位
 個人総合1位
 部長：下井 守 (大学院総合文化研究科教授)
 監督：三島駿一郎
 HP：
<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Club/7387/>



教育学部附属中等教育学校で新野宏先生による特別授業が行われる

2月1日（水）の午後に教育学部附属中等教育学校で、本学海洋研究所の新野宏教授の特別授業「積乱雲の話～雲、突風、集中豪雨から気候まで」が行われた。新野先生は積乱雲をテーマにして、その発生や気象現象のメカニズムなどを豊富なデータや写真、さらにはニュースとなった話題をもとに解説してくださった。



特別授業の様子

まず積乱雲は日中の陽射しによる強い加熱が起きる地表近くのごく限られた大気の積乱対流によって発生する。その積乱雲によって様々な気象現象が起こるようだ。

例えば集中豪雨は次々に発生する雲が流されながら直線上に並び、特定の場所で降雨が集中して局所的に降水量が増えることが原因であるという。昨年9月4日に杉並区を中心に被害が出た例は、本校の隣でかつ生徒の通学区域で起こったことなので、とても身近に感じることができた。

新野先生はその他にも雷、雹、竜巻、ダウンバーストなどの人間社会に被害をもたらす積乱雲の気象現象が起きるメカニズムをわかりやすく説明された。また積乱雲は自己破滅型なので、せいぜい1時間の寿命であることも同時に教わった。

さらに、「地球温暖化」は太陽からくる熱と地球から出て行く熱のバランスが崩れて起こり、この話題で必ず登場する二酸化炭素は、大気中で赤外線を吸収し地球を暖めている大切な物質であり、問題なのは大気中の濃度が次第に増加していることであることも説明された。悪者と思われる積乱雲が地球を冷やす役割を果たしているという。

最後に生徒からいくつか質問が出された。上級生よりもむしろ下級生から多くの質問が出て、その一つ一つに対して新野先生は丁寧に回答してくださったので、とても充実した授業となった。

（教育学部附属中等教育学校 田邊康夫）

今後の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1331	3月1日（水）	3月8日（水）	3月14日（火）
1332		特集号（予定）	
1333	3月15日（水）	3月22日（水）	3月29日（水）

平成18年度の学内広報発行スケジュール

号数	原稿締切日	発行日	配布日
1334	4月5日（水）	4月12日（水）	4月18日（火）
1335	4月19日（水）	4月26日（水）	5月8日（月）
1336	5月10日（水）	5月17日（水）	5月23日（火）
1337	5月24日（水）	5月31日（水）	6月6日（火）
1338	6月7日（水）	6月14日（水）	6月20日（火）
1339	6月21日（水）	6月28日（水）	7月4日（火）
1340	7月5日（水）	7月12日（水）	7月19日（水）
1341	7月19日（水）	7月26日（水）	8月1日（火）
1342	9月6日（水）	9月13日（水）	9月20日（水）
1343	9月20日（水）	9月27日（水）	10月3日（火）
1344	10月4日（水）	10月11日（水）	10月18日（水）
1345	10月18日（水）	10月25日（水）	10月31日（火）
1346	10月31日（火）	11月8日（水）	11月14日（火）
1347	11月15日（水）	11月22日（水）	11月29日（水）
1348		学生生活実態調査特集号（予定）	
1349	12月6日（水）	12月13日（水）	12月19日（火）
1350	1月10日（水）	1月17日（水）	1月23日（火）
1351	1月24日（水）	1月31日（水）	2月6日（火）
1352	2月7日（水）	2月14日（水）	2月21日（水）
1353	2月21日（水）	2月28日（水）	3月6日（火）
1354	3月7日（水）	3月14日（水）	3月20日（火）

INFORMATION

シンポジウム・講演会

シンポジウム・講演会

先端科学技術研究センター

第三回先端研フォーラム開催 「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」プロジェクトを振り返って

日時：3月9日(木) 10:00~17:30

場所：駒場リサーチキャンパス 総合研究実験棟
コンベンションホール/ホワイエ

申込・詳細：<http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp>

(トップから「第三回先端研フォーラム」のページにお入り下さい)

問合せ：forum2006@rcast.u-tokyo.ac.jp

2001年に採択された先端研の「戦略的研究拠点育成」プロジェクト(いわゆるスーパーCOE)が本年、3月をもって完了します。この間、先端研は大部門制の廃止から研究クラスター制の導入、オープンラボ形態での研究活動、公務員の定員枠に縛られない特任教員制度、そして経営と研究の分離など、様々な組織改革に先駆的に取り組んで参りました。

その中から新しい、分野横断型/文理融合型の研究が生まれたものもあれば、従来とは違ったタイプの産学連携の案件が実現するなど、システム改革の成果が具体的に現われつつあるところです。

そこで、今回のフォーラムではあらためて、東大先端研の5年間の改革の実験や成果を振り返り、その意義について問い直すとともに、今後に向けての先端研の、ひいては先端科学技術研究の課題について広く議論することにしています。

また、当日は「時間のつる草」という体験型のイベントもあわせて開催する予定にしています。これは、先端研で紡がれてきた5年という時間を、研究者の目や研究室の活動をアーカイブにして「時間のつる草」の中に取り込み可視化したものを、当日、参加して下さる皆さまに体験していただく、という実験です。先端研の時間はどのように過ぎていくのか、研究者は日々、何を見てどのように過ごしているのか、あるいは先端研を出たフィールドでの活動はどうなっているのか、などご覧いただければと思っています。



東京大学先端科学技術研究センター
第三回 先端研フォーラム
...「平成17年度科学技術振興調整費(戦略的研究拠点育成)」...

「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」プロジェクトを振り返って

日時 2006年3月9日(木) 10:00~17:30
場所 東京大学 駒場リサーチキャンパス・総合研究実験棟ほか

2001年に始まった科学技術振興調整費戦略的研究拠点「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」プロジェクトは2006年3月に完了いたします。そこで、この「第三回 先端研フォーラム」では5年間の研究成果をご紹介しますとともに、次の未来に向かって走り始めている先端研の姿をご覧いただきたいと考えています。

この東大先端研という空間で重ねられた時間、それに絡まるように紡がれた、この空間の外で重ねられた時間。さらに、未来に続く時計の針をここから先端研はどのように刻み込んでいくのか。東大先端研と一緒にその現場を「体験」してみませんか。

▼東京大学駒場リサーチキャンパスへの行き方



詳しい内容とお申し込みはこちら ▶ www.rcast.u-tokyo.ac.jp

東京大学先端科学技術研究センター
〒153-8904 東京都目黒区駒場4丁目6番1号 TEL 03-5452-5111 forum2006@rcast.u-tokyo.ac.jp

お知らせ

お知らせ

退職教員の最終講義

今年度末をもって本学を退職される方々の最終講義・講演について、下記のとおりお知らせします。

大学院理学系研究科・理学部

太田 俊明 教授

(化学専攻 物理化学講座 物性化学研究室)

日時：3月17日(金) 14:00～16:00

会場：化学本館5階講堂

演題：放射光を用いた物理化学
—新しい解析法を求めて—

小林 昭子 教授

(附属スペクトル化学研究センター)

日時：3月16日(木) 14:00～16:00

会場：化学本館5階講堂

演題：分子性伝導体研究これまでの30年

大学院工学系研究科・工学部

篠原 修 教授

(社会基盤学専攻 専門：景観論、土木デザイン論)

日時：3月8日(水) 15:00～17:00

会場：東京大学弥生講堂一条ホール

演題：景観研究と土木デザインの40年

大学院農学生命科学研究科・農学部

山口 五十磨 教授

(応用生命化学専攻 生物制御化学研究室)

日時：3月17日(金) 15:00～17:00

会場：化1講義室(2号館227号室)

演題：ジベレリンの多様な作用発現の解明に向けた40年の取り組み

小林 洋司 教授

(森林科学専攻 森林利用学研究室)

日時：3月8日(水) 16:00～17:30

会場：第8講義室(1号館227号室)

演題：森林利用学と私

谷田貝 光克 教授

(農学国際専攻 国際植物材料科学研究室)

日時：3月17日(金) 14:00～15:00

会場：化3講義室(2号館106号室)

演題：樹木のふしぎをたずねて—抽出成分と炭化生産物の特性と利用—

東條 英昭 教授

(応用動物科学専攻 応用遺伝学研究室)

日時：3月27日(月) 17:20～18:20

会場：第8講義室(1号館227号室)

演題：遺伝子改変動物の利用の現状と展望—光と影—

小川 博之 教授

(家畜病院長)

日時：3月27日(月) 15:00～16:00

会場：第8講義室(1号館227号室)

演題：附属家畜病院40年

大学院総合文化研究科・教養学部

伊藤 亜人 教授

(超域文化科学専攻 文化人類学コース)

日時：3月3日(金) 15:30～17:30

会場：教養学部18号館1階ホール

演題：東アジアからの人類学

小牧 研一郎 教授

(広域科学専攻 広域システム科学系・物理部会)

日時：3月7日(火) 16:00～17:30

会場：教養学部18号館1階ホール

演題：粒子線、波動と結晶

義江 彰夫 教授

(超域文化科学専攻 比較文学比較文化
文化コンプレキシティ 日本古代中世史)

日時：3月7日(火) 15:00～17:00

会場：教養学部学際交流ホール

(参加者の多いときは1106番教室)

演題：駒場と私の日本史研究

大学院新領域創成科学研究科

熊谷 洋一 教授

(環境学専攻 自然環境学大講座)

日時：3月26日(日) 15:00～17:00

場所：弥生講堂

演題：造園学から自然環境学へ

地震研究所

工藤 一嘉 助教授

(地震火山災害部門)

日時：3月24日(金) 13:30～14:30

会場：地震研究所第一会議室

演題：強震動研究の4要素に携ることが出来て

東洋文化研究所

原 洋之介 教授

(汎アジア研究部門)

日時：3月16日(木) 14:00～16:00

会場：東洋文化研究所3階大会議室

演題：アジア研究と経済学の狭間で

生産技術研究所

今井 秀樹 教授

(情報・エレクトロニクス系)

日時：3月1日(水) 16:00～17:30

会場：生産技術研究所

An棟2階コンベンションホール (An-201)

演題：符号と暗号

分子細胞生物学研究所

鶴尾 隆 教授

(細胞増殖研究分野)

日時：3月16日(木) 16:00～17:00

会場：弥生講堂・一条ホール

演題：抗がん剤耐性研究から分子標的治療への展開

海洋研究所

乙部 弘隆 専任講師

(海洋研究所附属国際沿岸海洋研究センター

沿岸生態分野)

日時：3月24日(金) 15:00～16:00

会場：海洋研究所講堂

演題：七つの海に憧れて

蓮本 浩志 専任講師

(海洋研究所附属海洋科学国際共同研究センター

企画情報分野)

日時：3月24日(金) 16:15～17:15

会場：海洋研究所講堂

演題：海洋観測と研究

総合研究博物館 (記念講演会)

田賀井 篤平 教授

(研究部 博物資源開発研究系)

日時：3月20日(月) 13:00～14:00

会場：総合研究博物館講義室

演題：私にとって記念碑的な2つの展示

－和田展・被爆試料展

大場 秀章 教授

(研究部 キュラトリアル・ワーク研究系)

日時：3月20日(月) 14:00～15:00

会場：総合研究博物館講義室

演題：極限環境に暮す植物を探る

お知らせ

保健センター

保健センターの業務休止のお知らせ

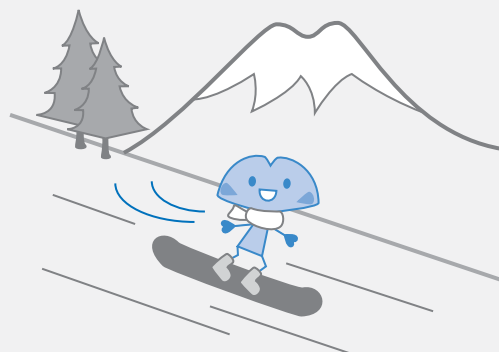
平成18年度入学予定者健康診断のため、下記のとおり保健センター各支所の業務を休止いたします。

	休診期間	健康診断証明書 発行休止期間
本郷支所 03-5841-2575	・3月10日(金) ～3月30日(木)	・3月10日(金) ・3月16日(木) ～3月20日(月) ・3月28日(火)
駒場支所 03-5454-6831	・3月16日(木) ～3月30日(木)	・3月16日(木) ～3月20日(月) ・3月28日(火)
柏支所 04-7136-3040	・3月10日(金) ・3月16日(木) ～3月20日(月) ・3月28日(月)	・3月10日(金)

※救急は随時対応

※健康診断書の発行については問い合わせのこと

※精神神経科については問い合わせのこと

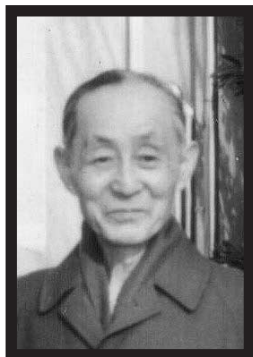


大澤 清輝 名誉教授

本学名誉教授大澤清輝先生は昨年12月21日逝去されました。享年88歳でした。

先生は、東京帝国大学理学部天文学科を卒業され、理学部助手兼東京天文台技手、東京天文台助教授を経て、昭和31年教授に昇任、昭和52年の停年退官にいたるまで本学で研究と教育に尽力されました。昭和48年からの4年間は評議員及び東京天文台長として本学の運営と発展に寄与されました。昭和57年に紫綬褒章、昭和63年に勲2等瑞宝章を受章されています。

先生は我が国の天体物理観測を開拓されたパイオニアの一人でありました。昭和28年から2年間ヤーキス天文台に滞在して大望遠鏡による観測を体験され、当時天文学の最先端であった恒星スペクトルの2次元分類を体得されました。また昭和34年にはプリンストン高等研究所において恒星のモデル大気の理論を習得されました。



我が国で光電測光の技術を開拓して天文学に根付かせたのも先生です。先生は大学卒業後、工学部で当時最先端のエレクトロニクスを勉強されたそうです。天体観測用光電測光装置の製作にはその知識が生かされたことでしょう。

東京天文台の188センチ望遠鏡計画では、建設委員会委員として最初期から努力されました。昭和35年に完成の暁には東京天文台岡山天体物理観測所長として望遠鏡の試験、性能評価、運用、観測所の運営に献身的な努力を払われました。研究面では、188センチ望遠鏡の最初の成果として特異星の分類カタログを発表し、高分散スペクトルによる星の解析を日本で花開かせたのでした。先生の退官後、大型新望遠鏡計画が動き出したのですが、その中心になったのは岡山天体物理観測所で育った研究者達でした。計画が「すばる望遠鏡」の完成となって実現したのは、先生の本学退官後20年以上経てからのことです。現在日本の天文学が世界と伍していけるのも先生のお蔭であることに感謝しつつ、先生のご冥福をお祈り致します。

(大学院理学系研究科・理学部)

ニュースページ、インフォメーションページへの記事提出要領

「学内広報」は皆さんに送っていただく記事で作られています。下記の提出要領により、積極的に学内の情報をお寄せください。

なお、「提出の際の留意事項」によらない原稿については、掲載ができないというのではなく、編集段階において適宜修正の上、掲載させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. **提出方法** 記事は、各部局の広報担当者をとおして、メールの添付ファイルとしてデータで送付すること。
2. **提出先** 総務部広報課 E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
3. **締切日** 原則として各月第1・3水曜日を原稿の締切日とする（配布は翌々週の火曜日）。
ただし祝日等により変更となる場合があるため、HPで発行スケジュールを確認すること。
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html（トップページ>広報・情報公開>学内広報）
4. **提出の際の留意事項**
 - (1) **文字数** 文字数は記事1件につき800字を目安とし、内容により増減は可とする。
 - (2) **写真**
 - ① 写真を掲載する場合はキャプション（説明文）を25文字以内で添えること。
 - ② 写真を電子データで提出する場合、Wordファイルなどに貼り付けず、JPEGなどの形式による元の画像ファイルを送付すること。
 - ③ 写真は電子データがない場合プリントのものも掲載可とする。
 - (3) **書式**
 - ① 原稿は1行25文字の書式で作成すること（ただし、大きな図表などが含まれる場合はこの限りではない）。
 - ② 原稿のはじめに担当部局名と記事タイトルを記載すること。
 - ③ 記事タイトルは極力簡潔でわかりやすいものとする。
 - (4) **文章表現のきまり**
 - ① 既に行われた行事や決定した事項などの報告記事は、「である調」を用いること。
 - ② これから行われる行事や募集などのお知らせは、「ですます調」を用いること。
 - ③ 句読点は「、」「。」を用いること（「、」「.」は用いない）。
 - ④ 時間は24時間表記とし、日付には括弧書きで曜日をつけること。
 - ⑤ このほか、特に表記する必要のない「平成●年」は削除する、特に支障がない限り「東京大学」は「本学」とするなど、表記の統一のための修正を編集段階において行う。
5. **問い合わせ先**

総務部広報課広報企画チーム
TEL : 03-3811-3393 内線22031 E-mail : kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

EVENT LIST

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
第5回 文化資源学フォーラム 「廃校の可能性 ―芸術創造の拠点として―」	3月2日(木) 13:00~	法文2号館2階1番大教室	大学院人文社会系研究科文化資源学研究室(佐藤) E-mail: cr_forum@i.u-tokyo.ac.jp http://www.i.u-tokyo.ac.jp/CR/forum.html
公開シンポジウム 「新しい教養教育としての身体運動とその科学的基礎」	3月5日(日) 10:00~	数理科学研究科大講義室	大学院総合文化研究科生命環境科学系 身体運動科学研究室 Tel:03-5454-6867、6133、6134 http://www.c.u-tokyo.ac.jp/jpn/kyoyo/sympo20060305.html
東洋文庫特別講演会 「Poets, Patronage, and the Place of Persian in the Early Modern World.」	3月7日(火) 15:00~	財団法人東洋文庫	東洋文化研究所(森本一夫) E-mail: morikazu@ioc.u-tokyo.ac.jp http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
日本社会研究情報センター 創立10周年記念シンポジウム	3月8日(水) 13:30~	山上会館	社会科学研究所附属日本社会研究情報センター S S J データアーカイブ担当(福田) E-mail: ssjda-sympo@iss.u-tokyo.ac.jp http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/sympo20060308.html
第三回先端研フォーラム 「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」 プロジェクトを振り返って ※17ページ参照	3月9日(木) 10:00~	駒場リサーチキャンパス 総合研究実験棟 コンベンションホール/ホワイ エ	http://www.rcast.u-tokyo.ac.jp forum2006@rcast.u-tokyo.ac.jp
新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻 知的財産インキュベーション戦略分野主催シンポジウム	3月11日(土) 13:00~	薬学系 総合研究棟 2階講堂	大学院新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻 http://www.k.u-tokyo.ac.jp/mgs/mgs_lab/bicourse/sympo/index.html
東文研セミナー 「Court and Power in the Mughal and the Ottoman Empires: A Comparative Perspective.」	3月11日(土) 15:00~	東洋文化研究所3階第一会議室	東洋文化研究所(森本一夫) E-mail: morikazu@ioc.u-tokyo.ac.jp http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
第2回生産技術研究所計測技術開発センター 公開シンポジウム	3月14日(火) 13:30~	生産技術研究所 An棟2階 コンベンションホール	生産技術研究所 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/tatsuma/symp2.html
東文研セミナー 「Palaces, Cities, and Landscapes: Topographical Themes in Early Modern Persian Poetry.」	3月15日(水) 14:00~	東洋文化研究所3階第一会議室	東洋文化研究所(中里成章) E-mail: nakazato@ioc.u-tokyo.ac.jp TEL: 03-5841-5864 http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/
「東京大学の生命科学」シンポジウム ※1329号参照	4月15日(土) 10:00~	安田講堂	分子細胞生物学研究所 伊藤 TEL: 03-5841-7800 FAX: 03-5841-1458 E-mail: ito.m@iam.u-tokyo.ac.jp http://www.iam.u-tokyo.ac.jp/ut_bio.html
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
21世紀COE ものづくり経営研究センター 「ものづくり寄席」	10月~3月	三菱ビルコンファレンススクエア アムプラス (東京駅丸の内南口)	ものづくり経営研究センター 03-5841-2272 http://www.ut-mmrc.jp/topics/yose.html
「重井陸夫博士コレクション ウニの分類学」展	10月15日(土)~ 4月16日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
特別展示 「アフリカの骨、縄文の骨―遙かラミダスを臨む」展 ※1326号参照	11月26日(土)~ 4月16日(日)	総合研究博物館本館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
2005年度美術博物館所蔵品展 「一高・東高コレクション展II―旧制高校と入学試験」 「レオナルド・ダ・ヴィンチの複製素描Ⅳ」 ※1329号参照	1月23日(月)~ 3月10日(金)	大学院総合文化研究科・教養学部 美術博物館	総合文化研究科・教養学部 美術博物館 TEL:03-5454-6139 FAX:03-5454-4929 http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/bihaku/
第104回(平成18年春季)東京大学公開講座 「人口」	4月1日(土)、8日(土)、 22日(土)、5月13日 (土)、20日(土)	安田講堂	(財)東京大学総合研究会 担当:徳久 TEL:03-3815-8345 FAX:03-3816-3913 http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/d04_01_01_j.html



ご意見・ご感想投稿大募集!

UTカフェは読者コメントを掲載するコーナーです。「学内広報」に掲載された記事に関するご意見・ご感想をはじめ、学内の様々な事柄に関して常々思っていることなどを、気軽にお寄せください。

投稿はEメールで受け付けます。メールの本文に以下の項目を記入し、下記アドレスまでお送りください。メールの件名は「意見」としてください。誌面への掲載はペンネーム・匿名が可能ですが、連絡用として投稿の際には氏名・所属をご記入ください。

<投稿先メールアドレス>

kouhou-ex@adm.u-tokyo.ac.jp

<記入項目>

- ①氏名・所属 ②連絡先電話番号
- ③本名・匿名・ペンネームの希望
- ④タイトル(20字以内) ⑤本文(300字以内)

「東大川柳」も同時募集

「UTカフェ」では、東京大学をテーマにした「東大川柳」も同時募集します。優秀作は不定期で「UTカフェ」に掲載します。川柳の投稿の際には、メールの件名を「川柳」とし、④に川柳をご記入ください(⑤はなし)。

Contents

特別記事

学内キャッシュレス化、進行中！－ICカード教職員証の現状－	2
-------------------------------	---

NEWS

一般ニュース

第2次学力試験（前期日程・後期日程）の出願受付終わる	4
平成18年度第2次学力試験（前期日程）の受験者数決まる	4
平成18年度外国学校卒業学生特別選考の受験者数決まる	5
東京大学基金による平成18年度国際交流助成事業の採択決まる	6
小宮山総長が世界経済フォーラム年次総会（ダボス会議）に参加	7
サステイナビリティ学連携研究機構（IR3S）公開シンポジウム開催される	7

部局ニュース

東京大学ナノバイオ・インテグレーション研究拠点設立記念シンポジウムの開催	8
「大学院理学系研究科・理学部教職員と留学生・外国人研究者との懇親会」、開かれる	9
ひらめき☆ときめきサイエンス「フェムトワールドへの誘い－超マイクロな世界の不思議－」、開催される	10
「産学連携フォーラム2006」開催される	11
第6回日韓中性子科学会議開催	11
第1回GIS講習会を開催	12

コラム

◆「バリアフリーの東京大学」の実現に向けて 第1回	13
◆調達本部です 第3回	14
◆コミュニケーションセンターだより No.12	14
◆Flags運動部紹介 No.9	15
◆（噴水）教育学部附属中等教育学校で新野宏先生による特別授業が行われる	16

INFORMATION

シンポジウム・講演会

第三回先端研フォーラム開催「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」プロジェクトを振り返って	17
--	----

お知らせ

退職教員の最終講義	18
保健センターの業務休止のお知らせ	19

訃報

大澤清輝名誉教授	20
----------	----

EVENT LIST

淡青評論

アウトリーチとインターフェース	24
-----------------	----

◆ 表紙写真 ◆ 駒場Ⅱキャンパス遠景（11、17ページに関連記事）

編集後記

広報課で働き始めた頃、東大はひとつの「街」だと思いました。その後、東大は無数のニューロンが繋がるひとつの「脳」だと思えるようになりました。そして現在、東大は日々進化し続ける「生命体」ではないかと思いはじめています。巨大な生命体はホメオスタシスが機能してごく自然に調和を保っているようにも思えます。この生命体の記録を忠実に刻み続けていくのが学内広報。私達は生命体各部が発信する信号を丹念に記録していこうと考えています。（し）



七徳堂鬼瓦

アウトリーチとインターフェース

科学技術創造立国が叫ばれ、科学技術基本法が制定されて10年が経つ。科学技術は、科学者・技術者の不断の努力によって進歩し、適切な後継者に引き継がれてさらに発展し多様化する。昨今の「理科離れ」、すなわち初等・中等教育レベルでの自然科学分野への関心が先細り傾向にあることは、次世代の育成という点で大いに気がかりである。

そもそも科学技術の進歩は、我々の社会に還元され、生活を豊かにするものでなければならない。そのためには、若年層に限らず、広く一般社会

人にも科学技術の基礎的素養（リテラシー）が求められている。最近「アウトリーチ」という言葉をよく耳にする。科学技術の面白さを積極的に社会に普及する広報・啓蒙活動のことだ。しかし言うは易いが、いざ自分の研究の内容や成果を、小中学生や一般大衆に分かりやすく伝えようとする、これが存外難しい。精一杯頭をひねってプロットをまとめ、見やすい図を描き、噛み砕いて話をしたつもりでも、期待したほど反響を得られなければ、結局独り相撲の悲哀を味わうことになる。

5年以上前になるが、カリフォルニア大学スクリップス海洋研究所で、所長補佐の女性研究者と話をして驚いたことがある。彼女の専門は何と国際関係論で、彼女の主要な業務は、一般社会や政府と海洋研究者との間を取り持ち、双方向のバリエーションを除いて情報をスムーズに流すことなのだという。以前の勤務先はNASA（米国航空宇宙局）で、そこでの手腕を買われて引き抜かれたらしいが、NASAの全職員1000名の中に、彼女のような役割を果たすプロが20名いると聞いてさらに驚いた。

いま一般社会と科学技術の最先端との距離が徐々に開きつつある。興味深い話題を提供したり、実験・実習に参加してもらうなど、研究者自身によるアウトリーチは可能だがやはり限界がある。また一過性のものである限り、その記憶は氾濫する情報の海に容易く飲み込まれてしまうだろう。いくら種を蒔いても芽が出なければ意味がない。科学技術の魅力や重要性が、社会に自発的に認識されるレベルまで、何とか近づけなければならない。一般社会と研究者の双方の立場に立ち、インターフェース（仲介者）の役割を継続して果たすことのできるプロ集団の有無が、今後の科学技術の健全な発展の死命を制するようと思われる。

蒲生俊敬（海洋研究所）

（淡青評論は、学内の教職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

〔訂正〕

「学内広報」において、一部誤りがありましたので訂正します。

関係部局、関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

No.1329（2006.2.8）

18ページ右段17行目

誤：新領域創生科学研究科

正：新領域創成科学研究科

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1330 2006年2月22日
東京大学広報委員会

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務部広報課

TEL：03-3811-3393

e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

http://www.u-tokyo.ac.jp